埼玉大学教育学部附属

教育実践総合センターニュース

NO.5　2011年　3月

目　次

あいさつ　センター長　金本　良通……1
平成22年度「教員の資質能力追跡調査事業」
（文部科学省委託）……2
ストレス・マネジメント実践講座……2
教育実践研究部門より……3
学校臨床心理部門より……4
教員養成開発部門より……5
おしらせ・スタッフ・アクセス……6

言語活動の充実のための実践に向けて

センター長　金本　良通

新学習指導要領の全面実施が、小学校ではこの23年度４月より進められる。学力向上、国際的に通用しうる学力の育成は喫緊の課題となっている。

今回の改訂は特に思考力・判断力・表現力の育成を重視しており、そのための言語活動の充実がすべての学校種、そして、各教科において求められている。国による今日の方策は、次の３点にまとめられる。

(1) 学習指導要領による目標と内容の設定
(2) 全国学力・学習状況調査「活用」問題の開発と蓄積、特に具体的内容とその程度
(3) 評価規準の改訂、特に観点「思考・判断・表現」の設定

これらの方策を通じて、今日的に求められている学力の向上への取り組みが進められつつある。そして、そこに一貫的に存在しているのが言語活動の充実である。その方針は、平成16年12月に公表された国際的な学力調査の結果が大きな動因となって示されている。

このような状況の中で、このたび新学習指導要領の全面実施を前に、文部科学省より『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校】』が公表された（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300990.htm）。具体的な事例を示すことによって、学校現場での実践が取り組みやすいようになされている。少し引用したい。

「言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため、各教科等において言語活動を充実する際には、このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。」

「言語の役割を踏まえた言語活動の指導の在り方と留意点について整理する。

(1) 知的活動（論理や思考）に関すること

各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実する。

○　事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
○　事実等を解釈するとともに、考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

(2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること

各教科等において、コミュニケーションや感性・情緒等に関する指導を行う際、次のような言語活動を充実する。

○　コミュニケーションは、人々の共同生活を豊かなものにするため、個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重していくようにすること
○　感性や情緒を育み、人間関係が豊かなものとなるよう、体験したことや事象との関わり、人間関係、所属する文化の中で感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること」

大変に興味深いものである。そして、このような原則の下で、各教科での指導事例が示されている。大学教育においても十分に留意したいものである。また、特に教員養成にあっては、このようなことに取り組める資質・能力を学生に身に付けさせていくことが必要であると思う。教育学部における教育も変わっていくことが求められている今日であり、そのようなことを教育実践総合センターでも念頭に置きたい。

平成22年度「教員の資質能力追跡調査事業」（文部科学省委託）「『力量ある質の高い教員』を目指す養成・研修の在り方」に関する調査研究

昨年度に引き続き、文部科学省から委託を受け、教員の資質能力の追跡調査研究を実施しています。

本研究は、教員に必要な資質能力を実証的に明らかにし、今後の国の専門的な検討に資することを視野に入れ、次のような目的で行っています。

・教員としての資質能力がどのように養成されているのかを明らかにする。　（研究の柱１）

・優れた人材を教員として確保するための養成・研修の在り方を明らかにする。（研究の柱２）

調査対象者は、平成21年度に埼玉大学教育学部に在籍して、平成22年度に埼玉県または、さいたま市に新規採用された小・中学校教員です。

研究を進めるに当たっては、小・中学校長等を委員とする推進部と埼玉県、さいたま市の管理主事、指導主事等を委員とする企画部を組織しています。

本年度は、質問紙（初任者、管理職がそれぞれ回答）やＤＶＤによる授業分析等を通して、次のような観点で研究のまとめ（２年次）を行いました。

【調査の観点】

・教職に対する情熱
・学習指導
・生徒指導
・学級経営
・人間関係を築く力
・校務分掌
・勤務状況及び心身の健康

【調査研究のための組織】

教員の資質能力追跡調査事業推進部
〈埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター〉

さいたま教育コラボレーション推進委員会
〈さいたま市教育委員会〉

埼玉大学教育学部と埼玉県教育委員会との連携協議会
〈埼玉県教育委員会〉

「ストレス・マネジメント実践講座　アドバンスコースを開催しました！」

例年「人間形成総合科目：ストレス・マネジメント」の受講者から、さらに学びたいというリクエストを受けて開催している単発講座です。今年度は３回行い、学部生、大学院生の他、長期派遣制度などで埼玉大学で学ぶ現職教員の方々も参加されました。授業とは違い体験が主な講座なので、「わかりやすい」「自分を振り返る良い機会になった」「日常生活でも活用したい」といった感想が多く、好評でした。来年度以降も開催する予定です。

第１回「ホッと一呼吸（ひといき）　ゆるむからだ　目覚めるからだ」
８月３日（火）　14時半～17時半　（埼玉大学　庄司康生先生）

第２回「対人関係のコツをつかんでストレスをかわす
―交流分析の「ストローク」活用法―」
８月４日（水）　13時～16時半　（東京経済大学　鈴木佳子先生）

第３回「自分も相手も大切に、上手に「ＮＯ」を言ってみよう！
―ロールプレイによる「断る」体験・「断られる」体験―」
２月24日（木）　13時～16時半　（目白大学　日高潤子先生）

教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

教職専門性・授業者としての
専門性の探究と養成

■「学ぶこと」のヴィジョンと
学びの場の創造開発研究
■Teaching & Learning
Action のリフレクション

教師の授業実践と子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ

教師の実践知の高度化
学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教員養成カリキュラムの
基礎研究

■教職専門性スタンダード
■学校の同僚性の構築
■表現する身体と関係性

平成22年度 アクション・リサーチ連携校

・新座市立野寺小学校
　同　西堀小学校
・熊谷市立中条中学校
・　同　大幡中学校
・白岡町立篠津中学校

・須賀川市立西袋第一小学校
・宇都宮市立陽東小学校
・北区立岩淵小学校
・江東区立南陽小学校
・茅ヶ崎市立浜之郷小学校
　同　小和田小学校
・富士市立元吉原中学校
・富山市立奥田小学校
・伊丹市立天神川小学校
　同　神津小学校
・高知市立潮江小学校
　同　鴨田小学校
　同　潮江中学校

学校改革・授業改革

○「聴き合う」「学び合う」学び
○ 学びの「文化創造共同体」
○「探究」と「対話」による学び
○「同僚性」の構築
○「アクション」～市民性への学び

Narrative Standard の開発

協働生成・形成的スタンダード

1．授業と学びを物語ること
2．形成的評価＝発展開発機能
3．カリキュラム開発機能
4．同僚性を構築すること
5．授業者としての身体性
　聴く　～　対話
　声～Elaboration～交響
　レッスンの場としての機能
6．大学が役割を果たしつつ、
　学校コミュニティの場創り

『木曜ゼミ』

ビデオによる授業カンファレンス

○木曜日　午後６時
○クリニコス・ホール
　（コモ棟２Ｆ）

県内外の小・中学校の授業実践のビデオを見て、語り、学び合います。
多様な視点の交流により、教師の実践知を学び合いましょう。

どなたでも参加できます。
（県内外の教職員・学生・院生）

事前にご連絡を。

さいたま市の「教師力パワーアップ講座」と連携して、「第３金曜」にも行う予定です。

平成22年度 木曜ゼミ　内容

第１回　４月15日（木）
●「リズム表現と歌」
　千代田区内小学校１年生

以降、下記のカンファレンスを行いました。

●音楽１，６年生「歌う・アンサンブル」
　お茶の水女子大学附属小学校
●国語２年生「形」
　熊谷市立中条中学校
●道徳３年生「心の贈り物」
　熊谷市立中条中学校
●３，４，５才児『音・動き・ことば』
　郡山女子大学附属幼稚園
●英語３年生「学校とは」
　熊谷市立中条中学校
●総合３年生「養蚕のアタリを願って」
　身延町立久那土小学校
●国語２年生「いつでも会える」
　高知市立一ツ橋小学校
●数学３年生「循環小数と分数」
　熊谷市立中条中学校
●算数１年生「時計のよみかた」
　茅ヶ崎市立浜之郷小学校
●国語２年生「形」
　富士市立元吉原中学校
●国語４年生「一つの花」
　練馬区立豊玉南小学校

ほか

学校臨床心理部門

本部門は従来、学部の教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動、地域貢献に力を入れています。今年度は特に地域貢献活動が充実し、埼玉県内の各市町村における研修指導などの機会や各種委員会活動への協力など、連携する幅が広がりました。

◆学部学生への指導・支援

1．人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

『人間形成総合科目：ストレス・マネジメント』が開講３年目を迎え、当部門の教員２名と教育実践研究部門の教員１名の３名がオムニバス形式で担当しました。「教職とストレス」では教員養成開発部門の教員２名をゲストスピーカーとして、「ストレスとのつきあい方」ミニ・シンポジウムでは音楽教育講座と保健体育講座の教員各１名をシンポジストとして招き実施しました。今年度も、学生には好評で、「ストレスについて幅広く知ることができ、対処法がわかり、日常生活で実践できた」「ロールプレイングやリラクセーションなど、実践的に学ぶことができてよかった」「今後の教員採用試験に向けて、また教員になった時に活かせる」などの感想が寄せられました。

2．「ストレス・マネジメント実践講座アドバンスコース」の実施

上記授業のアドバンスコースとして、今年度は外部講師もお招きして、ストレス・マネジメント実践講座を８月に２回、２月に１回開催しました。

第１回「ホッと一呼吸（ひといき）　ゆるむからだ　目覚めるからだ」８月３日
講師：埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター　庄司　康生　先生

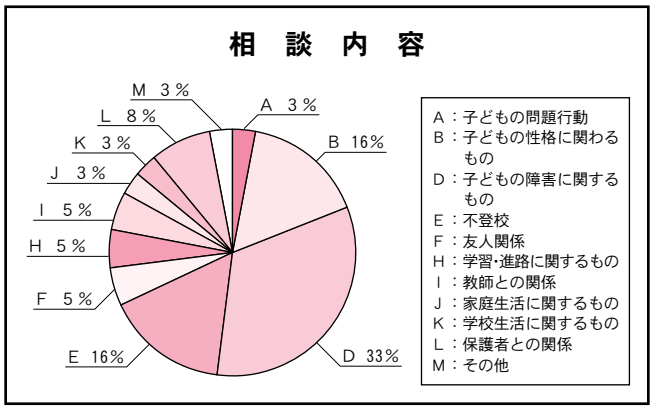
第２回「対人関係のコツをつかんでストレスをかわす　―交流分析の「ストローク」活用法―」８月４日
講師：東京経済大学学生相談室　鈴木　佳子　先生

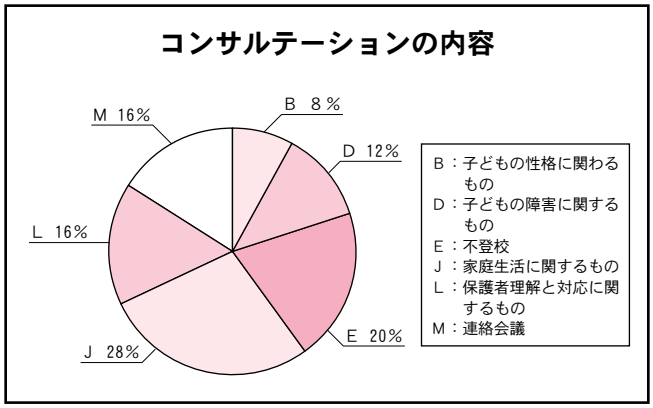
第３回「自分も相手も大切に、上手に「ＮＯ」を言ってみよう！　―ロールプレイによる「断る」体験・「断られる」体験―」２月24日
講師：目白大学人間学部　日高　潤子　先生

◆附属学校園との連携

1．附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

この相談活動は、附属学校園との連携の主軸であり、昨年度より、附属中学校に配置されたスクールカウンセラーとも連携を図りながら、相談活動を行っています。相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです（2011年１月末日現在）。





◆さいたま市（教育研究所）とのコラボレーション講座の開講

教育実践研究部門とともに「教職員のためのメンタルヘルスとリラクセーション講座」を毎月、開講しています。

◆研究活動

今年度のセンター紀要第10号において、研究員とともに、以下の研究報告を行っています。

「『人間形成総合科目』における「ストレス・マネジメント教育」に関する一考察」椋田容世・尾﨑啓子（P. １～８）

「矯正教育における自分を見つめ直す指導～Ｔｒｙ検査を用いて」船引聡子・鐘ヶ江香菜・尾﨑啓子（P. ９～12）

「高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響―性差の検討」若海由美・尾﨑啓子（P. 13～20）

「中学校におけるスクール・カウンセラーの活動～導入期の留意点について」相澤直子（P. 37～44）

◆全国国立大学教育実践研究関連センター協議会関連事業への協力

・11月７日に福島大学で開かれた第26回日本精神衛生学会大会の中の全国教育実践総合センター不登校研究会シンポジウム「不登校対策の最前線」における司会進行（尾﨑）

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、本年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1　教員の資質能力追跡調査事業

昨年度から、文部科学省の委託を受け、教員の資質能力追跡調査事業を実施しています。平成22年３月に本学教育学部を卒業し、４月から埼玉県、または、さいたま市に新規採用された小・中学校教員約80名を対象にしています。本学教育学部に在籍していた４年次からスタートし、教員１年目、２年目まで、３年間にわたる追跡調査です。

（※詳しくは、２ページ参照）

2　教育委員会との連携を視野に入れた「学校フィールド・スタディＡ」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を養成する目的で実施している本授業は、本年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、以下の活動を実施しています。

○事前授業の実施（５月・10月）
○実施校への視察と協議の実施（11月～１月）
○振り返り授業①②の実施（10月・１月）
○学習相談、補充授業の実施（適宜）

特に、振り返り授業①②では、指導者として埼玉県・さいたま市教育委員会の方に御講義をいただいたり、グループ協議の中で指導講評をいただいたりしています。

【グループ協議の様子】

3　進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に関わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会が推進する教育施策、学校現場が抱える様々な課題、服務と教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には４年生対象プログラムを、後期には３年生対象プログラムを実施しています。各プログラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

4　教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から２月までの間、約150名の学生が参加し、セミナーを実施しています。即戦力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、以下のとおり、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

・教師の一日と学校の一年間
・保護者対応
・学校事故への対処
・生徒指導の基礎基本
・教科等の授業づくり
・発問、板書、ノート指導の工夫
・学級事務、学級通信
・学級開きと保護者会　　等

なお、講師については、埼玉県・さいたま市教育委員会の方をはじめ、学校教育の第一線で活躍されている方を招聘しています。

5　さいたま市立小･中学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小・中学校研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

平成22年度は、現在まで、およそ70名という多くの学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

センターの基本理念・目的

(1) 教育の臨床の学の探求

人間と人間の関係性を軸にした教育実践の本質を、理論的・実践的に探究し、確立をめざす。

(2) 教育の臨床の学にもとづく教育実践への具体的関与

(1) に基づき、学校、地域・社会における教育実践・心理教育相談に直接的に関与する。

(3) 教員養成の研究と教育

(1) に基づき、現職教育を含む教員養成の研究を行い、学部の教員養成を直接的に支援する。

(4) 教育実践の連携媒体としての機能

地域・社会教育と連携し、学内外の教育にかかわるさまざまな立場、諸機関・組織をつなげ、連携の媒体となるとともに、学部教員養成の媒体的機能を果たす。

スタッフ

センター長……金本　良通
教育実践研究部門……庄司　康生
学校臨床心理部門……尾崎　啓子・椋田　容世
教員養成開発部門……岡野　雅一・野津　吉宏

客員教授（教員養成開発部門）
小杉　和子・鬼塚眞知子

兼任教員……八木　正一・岩川　直樹
船橋　一男・野村　泰朗
宇佐見香代・澤崎　俊之
堀田　香織

事務補助員……小河原千織

施設（貸出）使用の手続き

1．使用を希望する人は、あらかじめセンター事務室に連絡し、希望する日時の使用予定状況を確認した後、「使用許可申請書」を事務室に提出する。
　センター事務室担当者は、原則として火、水、金曜日に在室です。

2．鍵の受け渡し
【学部教員の場合】
　事務室の担当者と受け渡しの日時を確認の上、正面玄関の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用当日（当日が不可能な場合はできる限り速やかに）に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

【附属学校・園教員の場合】
　使用の直前に、附属小学校教員室に、２階出入り口の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用直後に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

3．使用設備など
　使用後は清掃を行い、使用した設備等は原状に復帰する。

4．火気、施錠の確認
　使用者の責任において、使用後の火気の始末、施錠を確認する。

アクセス

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース
No. 5　2011年３月15日　発行
編集・発行　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
〒330－0061　さいたま市浦和区常盤６－９－44
Tel. 048－832－9866　Fax. 048－831－0044
http://comweb1.center.edu.saitama-u.ac.jp